

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870101524		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホームお母さんの家	ユニット名(2階
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町 2297-17		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和 4年 1月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=0870101524-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に花壇や小さな畑をつくり、散歩や外気浴の時に花を観たり、野菜を育てて収穫する等、草花に触れ季節を感じていただいています。春には庭の桜の花見を楽しみにされている入居者さまもおります。近隣の乳児院や保育園との交流があり、小さな子供たちが遊びに来てくれると、皆さん顔をほころばせて喜ばれております。こどもの日やクリスマスには入居者様とプレゼントを届けております。訪問診療による毎月の診察と、訪問看護ステーションとの連携により日常的な健康管理ができており、入居者様とご家族の安心につながっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は水戸市郊外の緑豊かで雉の音が聞こえるような閑静な住宅地に立地している。健康管理には歯の管理も重要であるとの位置付けで、毎週の訪問歯科を受け入れている。職員は利用者の目線にそった支援に努めている。事業所は職員研修にEラーニングシステムを導入し、職員の自己啓発に注力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を出入り口、事務所内に掲示し、毎日目を通し、管理者と共に職員一同確認を行っています。	基本理念と地域密着型サービス理念を掲げ、理念を玄関や事務所に掲示して常に念頭において支援をしている。利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったケアの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の乳児院と交流があり、子供の日やハロウィーンの日などの行事にはプレゼントを届けるなど貴重なふれあいの場となっております。	コロナ禍以前は事業所の各行事に歌や踊りのボランティアを受け入れていたが現在は中止している。近隣の乳児院との交流はコロナ禍の現在でもプレゼントを贈るなどして継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のすぐ近くに住まわれている運営推進委員の方がおり、共に情報の共有を行い関係を構築しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣のグループホームとの合同会議が2回、デイホームお母さんの家との合同会議が2回と年4回の運営推進会議を行い意見交換や情報の共有をしています。	市職員や民生委員が参加して近隣施設との合同開催を行っている。委員からコロナ感染予防の為の対策の件で意見があり、施設としては面会を禁止するなど、万全の対策を実行している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム長が窓口となり、随時ご指導や助言を頂き、各ユニットへの情報共有が図られています。	要介護保険更新等で担当窓口をホーム長が訪問している。運営上の問題点や疑問、課題が生じた場合には、担当者に相談、助言をもらえるような良好な関係作りに努めている。市主催の研修会には積極的に参加している。定期的に生活相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して理解しケアを実践しています。玄関の施錠に関しては、入居者の安全確保の為夜間のみを使用を徹底していません。転倒・転落の危険のある入居者に対しては、御家族に説明を行い、同意を頂いた上で、必要な時間帯のみ使用しています。	「身体拘束適正委員会」を年4回実施し記録を残している。現在やむを得ず車椅子の利用者に安全ベルトを使用しているが、家族等に説明し、同意書を貰っている。職員は定期的に話し合いをもち記録を残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関しては、研修や資料等から学び、言葉による虐待も含め、話し合いながら虐待の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各職員が内容を把握する為に、書類等の配布・必要関連の研修への参加する機会を増やし、知識を得ると共に、今後も話し合いの場を増やしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項、運営基準、料金表の中から介護保険分と自己負担分の説明、又、該当者の加算項目や入居時の条件など、丁寧に説明をし、納得された上での契約となっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置して、施設の意見、要望等の把握に努めています。又、面会時に御家族にはその都度御意見、御要望がないかをお聞きしています。	重要事項説明書に相談・苦情窓口を複数明記しているとともに玄関に意見箱を設置している。家族等からは電話などで話を聞いている。意見があった場合には職員間で話し合い対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回社長、職員が集まり、Zoomにてミーティングを行っています。そこで話し合った内容が運営、ケアに反映されています。	月1回の全体会議を開催し、意見や提案を聞いたり、疑問点を皆で検討している。職員アンケートを年1回実施し、得られた結果は、経営者に報告されると共に職員にも共有されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を導入し、個々の努力、実務評価を行い、意識の向上に努めています。また、ミーティング等で資格取得を促し、資格取得により給与も上がる為、各自向上心を持って仕事が出来ています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は、可能な限り参加をしており、職員の学習、知識の修得の為、スキルアップに努めています。研修を受けたものが報告書をまとめ、資料等を各自が目を通すようにしています。又、各自が興味ある研修には積極的に参加する様促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会に加入しており、同業者との交流はあるが、勉強会、相互訪問等の活動には至っておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちに寄り添い、ご要望・ご不安はないか等、その都度お聞きする事で、不安感の解消に努めています。また環境に馴染めるよう、より良い信頼関係を構築出来る様、援助しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話連絡時や面会時には、御家族から話をお聞きする事で望んでいる事や、不安に感じている事等を、出来る限り正確に把握し、良好な関係性が築ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族からの相談内容から、本人にとって何が必要なか把握し、今後の施設での生活を予測しながら話し合い、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、尊敬の念を常に持ち、入居者と接しています。日々に生活の中で、職員と共に洗濯物たたみや、お掃除の手伝いをして下さりと、相互に支えあって生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に常に家族と一緒に考え、どのようにしたらいいかを話し合い、信頼される関係を作っています。LINEを活用し日々の様子も発信しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各階になじみの人がいる方もあり、職員と共に会いに行き交流が保たれている。	基本情報で利用者の友人関係などを把握している。利用者が自由に電話等で友人等と話せるように支援し、馴染みの関係の継続に努めている。コロナ禍以前は親戚や友人、知人の面会時には茶菓などで接待し、ゆっくりと話しが出来るよう支援していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題、趣味などがある入居者を職員が間に入り支え、和気あいあいと楽しめる様雰囲気作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居した入居者の方でも、現在どのようになっているか、面会に行った際などに必要に応じて聞くようにしています。家族が施設に来られた際は、経過をお聞きしています。また担当した社協の方からも情報を得ています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から、本人の希望等を確認し、カンファレンス等で検討し、それぞれの意向に沿って生活を送って頂ける様、援助しています。	日々の支援の中での会話や思いがけない態度、反応を通じて、利用者の思いや意向を改めて受け止めているが、得られた情報を記録に残すなどして、職員間で情報を共有するまでには、至っていない。	利用者から得られた情報は職員全員で共有できるように記録を残すことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり今までの生活歴や、生活パターンが違うので、自分らしく日々の生活を送って頂ける様に取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ラジオ体操など軽く体を動かしてもらい、天気の良い時は外気浴等で気分転換を図り、常に表情や体調の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでは、本人様の現状、今後の課題や、又、面会時等に家族の要望を聞き取り、本人様と家族の意向に沿えるよう、介護計画を作成し、ケアを実践しています。	毎月行っているモニタリングを、6ヶ月毎にカンファレンス会議で話し合い介護計画に反映している。サービス担当者会議の記録がある。退院時や病状悪化の場合は随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者一人ひとりの日々の様子や、行動などを個別の記録に具体的に記入し、職員間で情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設敷地内にデイホームが隣接しており短期利用型共同生活介護サービスを提供できる体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各行事の際、地域のボランティアに協力を依頼し、交流の場としています。又、出前を利用し、職員と入居者が普段とは違う雰囲気を楽しんだりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族から希望を聞き、係り付けの病院の希望があった場合は、継続して受診出来るように支援しています。	契約時にかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。かかりつけ医への受診は基本的に家族等が付き添っている。訪問看護事業所と契約し、24時間体制で支援できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、週1回の定期訪問で細やかな看護を受ける事が出来ます。又、急変時も24時間体制で相談などが行え、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時の情報把握の為、病院関係者、家族との連携しながら対応を行っています。又、定期受診の際に、日常での様子を報告し、相談に応じてもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて、本人や家族と共に十分に話し合いながら、医師との連携を図りながら、最善の方向に持っていける様、職員間で充分話し合っ対応しています。	看取りをする事業所であり、ターミナル同意書、時前確認書、医師意見書などの書類を整備している。重度化や看取りのマニュアルを整備し、年2回の研修会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、事故、急変時に備えています。又、施設一階事務所にAEDを設置し、急変時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	館内にスプリンクラーを設置しています。避難訓練を年2回実施し、全職員が安全に入居者様を避難させる事が出来る様、訓練しています。又、非常時に備えて、サイレン付メガホンや非常食も人数分備蓄しています。	夜間想定を含む避難訓練を行っているが地震や台風に備えた訓練を行うまでには至っていない。避難訓練後のミーティング記録はあるが、次回にむけての課題をだして実施するまでには至っていない。	地震・台風想定訓練を実施することを期待するとともに反省会で得られた課題を次回の訓練に取り上げることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時は、必ず声掛けを行い、入室しています。	職員は利用者の人格の尊重やプライバシーに配慮し、その人に合わせた言葉かけを行っている。人権尊重や守秘義務についての研修を年1回行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	通販のカタログを一緒に見たり自分で好みの物を選ぶ等の楽しみにより気分転換を含め、支援を提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	静養を取り入れながら雑誌やテレビを観たりと、個々にゆったりとした時間を過ごされています。天気の良い日は、外気浴、畑の野菜の草花を見たりして過ごされております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から化粧をする習慣がある方等もあり、本人の好みの化粧品の購入やその日の意見を尊重し、それぞれに合ったおしゃれが出来る様に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	エプロンたたみ等のお手伝いは、入居者と一緒に行っています。少しでも楽しく食事の時間を持って頂ける様声掛けを行い、出来るだけ温かい食事を提供する為、盛り付けは食事の時間に合わせています。	栄養管理がなされた外部業者からの食材を用いて職員が調理して提供している。台所の食事を作る音や臭いで食欲を誘っている。なるべく温かいうちに食事を提供するよう心掛けている。利用者とともに手作りおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活習慣に合わせ、水分不足と思われる入居者には、こまめな水分補給を促し、本人の好みの飲み物(サイダーやコーヒーなど)をお出しする様にしています。1日の食事摂取量や飲水量は、チェック表に記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にはうがい薬にて口腔ケアをしています。又、訪問歯科での治療を、定期的に受けられている入居者様もおり、口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを見逃さず声掛けし、失禁の回数を減らす努力をしている。又、排泄時は、トイレでの転倒の危険もある為、入居者のプライバシーに配慮しながら、見守りを行っています。	日中、夜間においても、出来るだけトイレでの自立排泄を支援している。便秘予防に心掛け、冷たい牛乳やヨーグルトを提供し、排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取量や排泄回数を毎回記録し、水分不足や運動不足にならないよう、下剤等の服用により、排便コントロールを行っています。便秘傾向の入居者に対しては、牛乳、ヨーグルト等を摂取してもらい、最終的に下剤等を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用し気分を変え、個人のペースに合わせて、時間帯等も工夫しています。一般浴が困難な入居者には、脱衣所の温度管理にて、快適にシャワー浴が出来る様援助しています。	浴槽に入れない利用者には足浴、掛け湯、清拭などで支援している。入浴を拒む利用者には無理強いしないで、利用者のタイミングに合わせて入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態に合わせて安眠出来るよう室温調節や、電気毛布の使用を行っています。より良い睡眠がとれる様に、居室内の環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤情報説明書をファイルし、分かりやすい場所に保管しています。服薬内容に変化があれば、その都度確認を行って、内容把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴・嗜好品・得意な事など、職員全員が把握に努めており、希望があればカラオケや外出支援を行い、場面にあった支援が出来る様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子対応者が増えて数名づつではあるが対応はしている。天気のいい日は、近所のコンビニまで嗜好品を買いに出かけることもあります。	天気のいい日には植栽された庭、菜園を散歩したりベランダでの外気浴を行うなどし、四季折々変化を楽しめるよう配慮している。近所のコンビニやショッピングモールに出かけ、商品を選んだりして、残存機能の維持に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状の進行から、現金の管理が難しい状態にあり、現金は預からず立替し必要品を購入しております。外出の時は入居者の希望をお聞きし、一緒に買い物をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、その都度要望があればかけられる様支援しています。最近では職員が間に入りLINEのビデオ電話を使用し入居者と家族が会話ができるな環境を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の花壇には、四季を感じていただけるよう草花を育てています。フロアには季節に応じた飾り付けを行い、視覚でも四季を感じて頂けるよう心掛けています。	居間兼食堂は清潔に保たれ、常に室温や湿度は適度に保たれている。玄関前の花壇には四季折々の花や野菜を栽培している。小上がりの八畳の畳敷きがあり、利用者は思い思いに寛いでいる。ベンチが設置され気の合った利用者同士の談笑・語らいの場であったり、一人になれる空間も確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチや畳があり、フロア内自席では音楽を聴いたり、テレビや雑誌を観たりと、思い思いの場所で過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やテレビ等、長年本人様が使用していた物を持ち込んで、頂いています。ご家族の写真飾る事により、穏やかに過ごして頂ける環境づくりを心掛けています。	居室にはエアコンやベッド、洗面台等が備え付けられている。自宅同様に過ごせるように、使い慣れた物や馴染みの物を持参するように利用者、家族等に説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行が出来る手すりが設置されています。又、フロア内は車椅子がスムーズに移動出来る、十分なスペースがあります。手作りの日めくりカレンダーと壁時計で、月日を確認出来る様にしています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームお母さんの家

作成日 令和 4年 1月 28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	○思いや意向の把握 利用者から得られた情報は職員全員で共有できるように記録を残すことを期待する。	利用者や家族から得られた新たな情報は職員全員で共有をする。	利用者や家族から得られた情報は日々の生活記録に残すとともに、いつでも書き留められるノートに記入し、職員間で共有に努める。	2ヶ月
2	35	○災害対策 地震・台風想定訓練を実施するとともに反省会で得られた課題を次回の訓練に取り上げることを期待する。	地震や台風を想定した訓練を実施する。訓練後の課題を次回の訓練につなげる。	火災訓練に限らず、自然災害時の訓練も定期的に取り入れ防災に備える。 訓練後の反省会で出た課題や問題点を共有し改善に努める。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。